

事務事業名		小中学校体育文化活動大会出場費補助事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	27 義務教育の充実					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	04 心豊かでたくましく生きる人間の育成					01	10	01	04	04
根拠法令		大船渡市小中学校体育文化活動大会出場費補助金交付要綱									
所属	部課名	教育委員会事務局 学校教育課									
	課長名	千田 晃一									
	係名	学務係	電話	0192-27-3111							
	担当者	志田 拓也	内線	288							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
この事業は、小中学校の児童生徒に知識技能の向上の機会を与え、体育活動及び文化活動の充実と振興を図るため、体育及び文化大会への出場に要する経費に対し、予算の範囲内で補助するものである。 補助対象大会は県中学校体育連盟等が主催する岩手県大会、東北大会及び全国大会で、補助対象経費は、参加する児童生徒の交通費及び宿泊費。 事業の流れは、小中学校PTA会長から市に交付申請→交付決定→小中学校PTAへ補助金の交付(口座振り込み)。 なお、平成25年度途中から事業実施事務を、大船渡市小中学校長会事務局から市に移管した。					総 投 入 量 (千円)	事業 費 内 訳	国庫支出金				
							都道府県支出金				
							地方債				
							その他				
							一般財源				
							事業費計 (A)		0		
人 件 費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計 (B)		0								
	トータルコスト(A)+(B)		0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
	名称	単位							
	ア 市内小中学校の児童生徒数	人							
	イ								
ウ									
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
県大会以上の体育及び文化大会に出場する小中学校の児童生徒	名称	単位							
	カ 大会に出場する児童生徒数(延べ数)	人							
	キ 出場する大会数(延べ数)	件							
	ク								
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
保護者負担を軽減し、児童生徒の大会参加をしやすくする	名称	単位							
	サ 大会に出場する児童生徒の割合	%							
	シ								
	ス								
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)									
知識技能の向上 体育活動及び文化活動の充実と振興 豊かな人間性が培われる 健康でたくましく成長できる									
(2) 総事業費・指標等の推移									
投入 量	事業 費 内 訳	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)	
		単位							
		国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
	人 件 費	一般財源	千円	3,000	1,169	2,998	2,850	2,850	2,850
		事業費計 (A)	千円	3,000	1,169	2,998	2,850	2,850	2,850
		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	80	40	40	40	40	40
		人件費計 (B)	千円	320	160	160	160	160	160
		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,320	1,329	3,158	3,010	3,010	3,010
⑤活動指標	ア	人	3103	2917	2826	2720	2620	2,520	
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	人	593	210	614	610	610	610	
	キ	件	68	43	73	70	70	70	
	ク								
⑦成果指標	サ	%	19.11	7.20	21.73	22.43	23.28	24.21	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0934	事務事業名	小中学校体育文化活動大会出場費補助事業
--------	------	-------	---------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

以前から（詳細な時期は不明）。

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

児童生徒数が減少している。

平成25年度途中から、事業実施事務を外郭団体である大船渡市小中学校長会事務局から市へ移管し、補助金交付要綱を制定した。
また、補助対象経費に宿泊費を加え、前金払制度を廃止し、年度末の精算払とした。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

前金払が廃止となり年度末の精算払となったことで、卒業生や転出する児童生徒の保護者へのお金の受け渡しに時間の余裕がない。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 体育文化活動の向上により、児童生徒の心身の健全育成が図られる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 大会参加には相当額の経費がかかることから、その負担を軽減する必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 宿泊費、交通費等の経費が必要となる県大会以上の大会への参加を対象としており、妥当と考える。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 現在は、予選を突破して各学校の代表として大会に出場することから、財政的に可能であれば、大会参加に係る必要経費の全額を交付することが望まれるが、予算の範囲内で補助金交付することとなり現状維持が適正と考える。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 補助金廃止は、児童生徒の保護者への負担増に直結することから、大会参加を辞退する学校が出てくることが予想される。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 類似事業はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など） 補助金であり、削減は児童生徒の保護者への負担増に直結する。
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど） 1名の担当職員が事務処理をしている事業であり、人件費の削減余地は無い。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 事業の内容が一部の受益者に偏っている不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 補助対象経費は交通費及び宿泊費のみで、参加費や食費等は参加者が負担していることから、他児童生徒と不公平とは言えない。また、学校代表として大会に参加しており、特定の受益者に偏っているとは言えない。

事務事業ID	0934	事務事業名	小中学校体育文化活動大会出場費補助事業
--------	------	-------	---------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成18年度に補助金の交付方法・交付時期等を変更しており、以前より補助金が有効に活用されていると考える。 事業実施団体である大船渡市小中学校長会の事務局移管について、今後関係機関と協議を進めていく。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 人件費削減のため、事業実施団体である大船渡市小中学校長会の事務局移管について、関係機関と協議を進めていく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	●		×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 大船渡市小中学校長会事務局の移管先確保が課題。																							

2次評価者	(職 名) ※原則として施策の主管課長 学校教育課長	(氏 名) 千田 晃一
-------	-------------------------------	----------------

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 県大会以上の大会へ出場した際、旅費の一部の補助金を交付することが目的であり、適切な事業である。しかし、震災による援助もあり援助と補助金の関係を見直す必要がある。																					
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成18年度より、補助金申請の時期を問わないことにしたことにより、学校側の立て替え払いが生じなくなった。現状通り継続して事業を実施する。しかし、震災による援助と補助金の関係を見直す必要がある。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>○</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○	●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	○	●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
